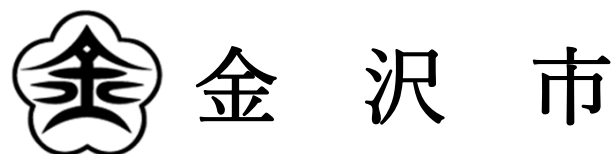


第2次

金沢版総合戦略

取組状況

令和3年10月



第2次金沢版総合戦略の概要

【金沢市人口ビジョン】

2060年の金沢市の人口 国の推計 34万7千人

↓
【自然減】合計特殊出生率：2040年 2.07に向上
【社会減】転入の増加、転出の抑制を図る

↓
2060年の金沢市の人口 43万2千人確保
(国の推計より8万5千人増加)

【第2次金沢版総合戦略】

推進期間：令和2年度～令和6年度（5年間）

4つの基本目標：各々に数値目標を設定
具体的な施策：重要業績評価指標（KPI）を設定

↓
進捗管理：数値目標とKPIを使用し、PDCAサイクルにより効果検証・改善を実施

4つの基本目標

基本目標

1

若い世代に優しく、子育ての喜びを分かち合うまちをつくる

【数値目標】 合計特殊出生率 1.48（H30）→1.69（R6）

基本目標

2

金沢の強みを生かし、人々が愛着を持ち、集うまちをつくる

【数値目標】 ・市外へ就職する学生数を1割減 約2,000人（H30）→1,800人（R6）

基本目標

3

イノベーションにより、産業と雇用が創出されるまちをつくる

【数値目標】 ・金沢地域への観光入込客数 1,045万人（H30）→1,121万人（R6）
・価値創造拠点施設の整備 未整備（H30）→整備（R6）

基本目標

4

周辺地域と連携し、心地よく暮らしやすいまちをつくる

【数値目標】 ・石川中央都市圏における連携事業数 80事業（H30）→99事業（R6）

金沢SDGsとの関わり

金沢SDGsがめざす「一人一人の市民が、未来を想像（IMAGINE）し、様々な人や組織と協働しながら行動を起こしていく」ことは、本市のまち・ひと・しごと創生を実現していく上でも不可欠な視点であることから、第2次金沢版総合戦略は、金沢SDGsの示す5つの方向性を踏まえながら、具体的な取組を示す行動計画として策定。



第2次金沢版総合戦略

- 基本目標 1** 若い世代に優しく、子育ての喜びを分かち合うまちをつくる
- 基本目標 2** 金沢の強みを生かし、人々が愛着を持ち、集うまちをつくる
- 基本目標 3** イノベーションにより、産業と雇用が創出されるまちをつくる
- 基本目標 4** 周辺地域と連携し、心地よく暮らしやすいまちをつくる



令和2年度 実施状況の概要



基本目標

1

若い世代に優しく、子育ての喜びを分かち合うまちをつくる

【数値目標】 合計特殊出生率 1.48 (H30) → **1.37 (R1)** → 1.69 (R6)

※ R2確定値は12月頃公開予定

▼主な施策の令和2年度の実施状況▼

(1) 妊娠から出産・育児までの期間を安心して過ごすことができる環境づくり

- ワンストップ拠点において、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談や支援を実施
- 子育て情報を一元的に提供する「金沢子育てお役立ちBOOK」及び「金沢子育てお役立ちウェブ」の内容充実
- 石川中央都市圏の子育て情報が簡単に検索・確認できる子育てアプリの拡充



(3) 仕事と家庭の両立や地域活動等への参画を促進する働き方改革の推進

- 働き方改革に意欲的に取り組む企業を募集し、その取組への支援や取組の経過等を広く発信
- 地域の特色・資源を活かした分野や先端科学技術分野等で、産学連携の社会人向けリカレント教育プログラムを実施
- 男性の育児休業取得の促進を図り、男性も主体的に家事・育児参加する社会環境づくりを推進

(2) 結婚の希望をかなえるための環境づくり

- 市の外郭団体と連携し、イベントを開催することで、結婚や子育てに関する意欲の向上を支援



子育ての喜びが実感できるまち

▼主なKPIの状況▼

- ・子育て家庭訪問件数 未実施 (H30) → **12件 (R2)** → 300件 (R6)
- ・放課後児童クラブ受入人数 5,050人 (H30) → **5,234人 (R2)** → 5,565人 (R6)
- ・出会いイベント参加者数 52人 (H30) → **18人 (R2)** → 80人 (R6)
- ・はたらく人にやさしい事業所表彰企業数 40社 (H30) → **58社 (R2)** → 70社 (R6)

令和2年度 実施状況の概要



基本目標

2

金沢の強みを生かし、人々が愛着を持ち、集うまちをつくる

【数値目標】市外へ就職する学生数を1割減 約2,000人 (H30) →1,800人 (R6)

【参考値】県外就職内定者数 2,756人 (H30) →2,676人 (R2) ▲3% →2,481人 (R6)

▼主な施策の令和2年度の実施状況▼

(1) 高等教育機関等と連携した「学都金沢」の推進

- 就業体験と事前・事後研修を一連で行う教育プログラムとしてのインターンシップ（エクスターンシップ）を産学官連携で実施

(2) まちの魅力を生かした移住・定住の促進

- 官民連携による空き家等の活用・流通体制を構築し、移住者の受け皿の一つとなる空き家の適切な管理及び利活用を促進
- 県外に進学した学生や県外在住者等に向けて、金沢への移住・就業に関する情報を発信



金澤町家情報館

(3) まちに愛着を持つ人材の育成

- 文化施設のフリーパス等の特典を受けられる「学都パスポート」の利便性向上や周知普及を促進
- 小中学生を対象に多様な分野の芸術・文化を気軽に体験できる機会を提供

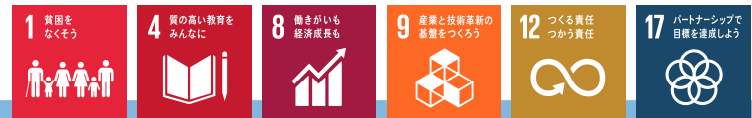
(4) 金沢と継続的に多様な形で関わる「関係人口」の創出・拡大

- 首都圏の学生と協働して、金沢で活躍する社会人との交流や金沢の魅力・情報を発信する「いいね金沢ゼミ」を開催し、県外の学生等と金沢のつながりを強化

▼主なKPIの状況▼

- ・住宅取得支援制度活用等による県外から本市への移住者数（累計） 42人 (H30) →**159人 (R2)** →222人 (R6)
- ・学生と地域の新規協定締結数（累計） 33件 (H30) →**36件 (R2)** →45件 (R6)
- ・ジュニア金沢検定受検者数（累計） 6,420人 (H30) →**14,879人 (R2)** →37,500人 (R6)
- ・「いいね金沢ゼミ」への参加人数（累計） 未実施 (H30) →**50人 (R2)** →180人 (R6)

令和2年度 実施状況の概要



基本目標

3

イノベーションにより、産業と雇用が創出されるまちをつくる

【数値目標】・金沢地域への観光入込客数 1,045万人 (H30) → **1,068万人 (R1)** → 1,121万人 (R6)
・価値創造拠点施設の整備 未整備 (H30) → **着工 (R2)** → 整備 (R6)

※ 観光入込客数のR2確定値は12月頃公開予定

▼主な施策の令和2年度の実施状況▼

(1) 金沢の文化と産学官の叡智の融合

- 新たな価値の創造と子供たちの独創力の育成を目指し、価値創造拠点施設を整備
- 「食、人、未来のつながりを金沢から世界へ」をテーマに、国内のクリエイターや地元の若者達により創造・交流会議を開催

(3) 金沢ブランドを活用した独自産業の創出

- 飲食店と連携したキャンペーンを開催し、甘エビ、ズワイガ二等金沢港を代表する海の幸を重点的にPRすることで、ブランド力を向上

(2) 持続可能な観光の振興

- まちなかの観光案内所を運営し、観光客の受入環境を整え、旅行満足度の向上を促進

(4) 多様な主体との連携による新分野産業の創出

- 環境・福祉・医療等の分野や、産学連携等による新製品開発や既存製品改良に対する研究開発を支援



ITビジネスプラザ武蔵

▼主なKPIの状況▼

- ・年間宿泊客数 331万人 (H30) → **201万人 (R2)** → 361.9万人 (R6)
※R3.3策定の「金沢市持続可能な観光振興推進計画2021」に合わせ目標値を修正
- ・「金沢かがやきブランド」認定製品数 (累計) 142品 (H30) → **149品 (R2)** → 157品 (R6)
- ・海外見本市出展等への支援件数 (累計) 48件 (H30) → **56件 (R2)** → 72件 (R6)
- ・環境・福祉・医療等重点分野における研究開発支援件数 80件 (H30) → **88件 (R2)** → 110件 (R6)



基本目標

4

周辺地域と連携し、心地よく暮らしやすいまちをつくる

【数値目標】・石川中央都市圏における連携事業数 80事業 (H30) → **88事業 (R2)** → 99事業 (R6)

▼主な施策の令和2年度の実施状況▼

(1) 圏域連携による経済・生活圏の形成

- ・国際分野における専門人材ネットワークを石川中央都市圏において共有し、多文化共生、国際交流イベントを共同で開催

(2) コンパクトシティの形成



まちのりポート

- ・中心市街地における都市機能の向上を図るため、事業化に向けた施策を地域住民と協働で検討
- ・電動アシスト自転車の導入やポートエリアの拡充、IoTを活用した案内機能の強化等、公共シェアサイクル「まちのり」の利便性を向上しまちなかの回遊性を向上

(3) コミュニティ環境の充実

- ・地域課題を解決するため、育成機能、コーディネート機能、情報提供機能を柱とした市民活動サポートセンターの運営



市民活動サポートセンター窓口

(4) 元気な中山間地域の形成

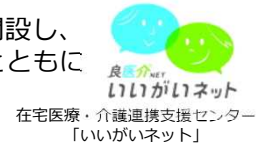


三谷さとやま交流広場

- ・「三谷さとやま交流広場」において、四季に応じたイベントの開催を通して、都市住民との交流を促進
- ・山間地域等の交通不便地域において、住民主体で運営するバス等の運行を支援

(5) あらゆる世代が健康に暮らせる地域づくり

- ・在宅医療・介護連携に関する相談窓口を開設し、地域の医療・介護の資源情報を集約するとともに必要な情報をホームページ等で公開



在宅医療・介護連携支援センター「いいがいネット」

- ・元気な高齢者が介護に関係するボランティア活動や地域福祉のボランティア活動への参加でサービスクーポンと交換可能なポイントを得られる制度の運営
- ・ひとり暮らし高齢者の孤立防止のため、地域住民主体の生活サポートを行う「地域安心生活支え合い事業」の実施

▼主なKPIの状況▼

- ・公共シェアサイクル「まちのり」利用者数 63,284人 (H30) → **103,785人 (R2)** → 100,000人 (R6)
- ・市民活動サポートセンターにおけるマッチング数 (累計) 5件 (H30) → **11件 (R2)** → 10件 (R6)
- ・里山管理活動支援地区数 (累計) 1地区 (H30) → **2地区 (R2)** → 7地区 (R6)
- ・アクティブシニア「総合相談窓口」相談件数 未実施 (H30) → **146件 (R2)** → 323件 (R6)